



巨大ターミナルのナビゲーション役を担う 新宿駅西口広場デジタルサイネージシステム

課題

使い勝手が良く視認性の高いサイネージを設置したかった

解決

鉄道運行情報の表示が決め手となり、日立などが提案した4K大型サイネージを導入

効果

運行状況をいち早く確認可能。多言語化された地図もインバウンドに好評

利用者世界一の駅周辺を案内

世界一一日平均乗降者数が多い駅としてギネスブックにも登録されている新宿駅。JR東日本、京王、小田急、東京メトロ、都営地下鉄の各駅に加え、地下道などで接続する西武新宿駅や南口に新設された高速バスターミナル「バスタ新宿」まで含めると、1日の平均利用者数は横浜市の人口に迫る約360万人にもものぼります。駅周辺のホテルや家電量販店などに集まる外国人観光客が多いことでも知られ、出入口や乗り換え口が複雑な駅構内を迷わず移動するのは、日々通い慣れた人以外はかなり困難といえるでしょう。

なかでも朝早くから夜遅くまで多くの人々が行き交うのが、都庁や地下街に通じる新宿駅西口広場です。そのセンターエリアに2015年4月9日、60インチディスプレイを12台つなぎ合わせた約227インチ相当の大型デジタルサイネージが設置されました。さまざまな行政情報や災害情報、鉄道・バスの乗り場案内、周辺地図などを提供しているこのシステム

は、各種情報の認知度向上と、観光客や国際的なイベントなどによるインバウンド（訪日外国人）の急増に向け、より快適でわかりやすい公共空間のナビゲーター役を担っています。

JR運行情報配信の実現が決め手に

「この場所には5年ほど前から、周辺地図やイベント情報を映し出すデジタルサイネージを設置していました。しかしハードとソフト双方の老朽化が進み、入れ替えが必要になったことから、利用者ニーズを検討し直し、より使い勝手が良く視認性の高いシステムを導入しようと考えました」と語るのは、東京都における道路行政や駐車対策の推進を通じて都市機能の維持増進に貢献している公益財団法人 東京都道路整備保全公社 事業部

事業推進担当課長の石井克典氏です。大型マルチビジョンの左右には4K※対応の70V/32V型ディスプレイが配置され、容易なタッチ操作で英語・中国語（簡体/繁体）・韓国語と多言語対応



公益財団法人東京都道路整備保全公社

所在地 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル20F
 設立 1960年3月19日
 資本金 5億円(2013年4月1日現在)
 職員数 402名(2015年4月1日現在)
 事業内容 道路事業、駐車対策事業、自主経営事業



した地図情報が検索できます。32V型ディスプレイはスマホライクな指のピンチアウト・ピンチインでの拡大・縮小・回転が可能。検索した情報を隣の70V型ディスプレイに表示して多人数で確認することもできます。さらに、駅と都庁を結ぶ「動く歩道」脇の柱5か所にも47インチディスプレイ(柱両面で計10画面)が設置されました。

導入にあたっては、同公社が示した基本要件に合わせ、表示されるコンテンツ内容や運用・操作性の提案も含めたコンペティションを開催。複数の企業連合体が競う中、選ばれたのが日立とシャープ株式会社、地図サービスMapFanで知られるインクリメント・ピー株式会社が共同提案した大型デジタルサイネージシステムでした。

「日立さんたちの提案は、コンテンツ内容と操作性の良さ、液晶ディスプレイと地図の美しさなどがバランスよく調和した素晴らしいものでした。また公社ではサイネージの設置場所の関係で、JR東日本さんの運行情報が必要となると考え、JR東日本さんに働きかけることで、初めて駅構外で運行情報表示ができることになりました。さらにJR東日本

さんとまったく同じ画面对応ができることも決め手となりました」と石井氏は経緯を振り返ります。

従来はJR改札口まで行かないと確認できなかったリアルタイムな運行表示が、距離的に離れた西口広場と動く歩道からでも見られれば、運行トラブル時の他社線乗り換えやバス・タクシーによる移動などの代替プランを早期に選択できるようにになります。これにより改札周辺での滞留を防ぎ、スムーズな誘導を図ることに貢献しています。

※ 水平画素数が3,840(約4,000)ある高画質ディスプレイ

地図利用は6割以上が外国人

予想どおり、運行表示機能は利用者から高い評価を得ています。「特に都庁方面から駅に向かう方々には“情報を早く知ることができて助かる”“改札口で右往左往することがなくなった”と、お褒めの言葉をいただいています」と笑顔を見せる石井氏。詳細な4K表示の地図情報も好評で、タッチパネルから取得されるログ分析の結果、6割以上を外国人が利用していることがわかりました。「4割が日本語、3割が英語、続いて中国語、韓国語の順です。外国人の利用者が予想以上に多く、初めて訪れた街のナビゲート役として便利に利用されているのがうれしいですね」と語る石井氏は、国際的なイベントの開催とともに増加するインバウンド対応に向け「さらなる多言語化にも取り組んでいきたい」と意欲を見せます。

「サイネージの情報をスマートフォンに取り込みたいとのご要望もありますが、設置場所が法律上“道路”となっており、現状では滞留を防ぐため提供できないのが残念です。ただし今後は利用者ニーズの変化に合わせ、Wi-Fiの提供やパブリックビューイング的なコンテンツも増やしていけないか検討しています。また、今年度中にLアラートにも対応させることで、災害発生時の情報提供をより迅速に行うことができるよう検討中です」と石井氏は語ります。

駅利用者の利便性を向上し、街の活性化と安全・安心にも役立つ新宿駅西口広場の大型デジタルサイネージ。これからも日立は、その安定稼働とさらなる機能強化をパートナー企業とともに力強くサポートしていきます。



お問い合わせ先

(株)日立製作所 産業・水業務統括本部

https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/infrastructure/jp/urban/form.jsp?UM_QNo=6

■ 情報提供サイト

http://www.hitachi.co.jp/products/infrastructure/product_solution/industry/digitalsignage/